

私は、気づかなければいけないことに気づけないでいるという方が、まだかなり多く、それが問題なのだと考えるようになりました。なぜならば、例えば心のバランスを崩した方の場合、まれに霊障の場合もありますが、本人の物の考え方に起因することもあり、それらについて、本人はもろろの事、家族も真理を理解しないが為にただ霊障であるといい続けることで、先祖に何か自分たちが失礼なことをしているかもしれない、または、神仏のおしかりを受けているかもしれない・・・ということがあるからです。

私たちは日常生活の中で、「環境に慣れる」という言葉がありますように、そのボックスという外から見えない「環境」の中で、まちがっている事なども「気づかず」、代々、見よう見まねで親子、子から孫へと文化が継承されてきました。

しかし、人間は年を重ねることにいろいろと知ることができず、二十代で気づかなかったことに、三十代で気づく・・・。

三十代で理解できないことが、四十代で・・・。
四十代で気づけない事が五十代で気づく・・・。

過去を振り返り、「なるほど、そうだったのか！ あのと気づいていれば、今、これほど苦しまなくてよかったのに・・・」とい

う後悔を、私はみなさんに少しでもなくさせたいのです。

「気づかせたい！」「気づいて幸せになってほしい！」これがわたしのいう気づきなのです。

「幸せになる為」の条件は「気づき」だと確信しました自分の欠点に気づかず、「先祖が障った」と自分の先祖に罪をかけていく時代は終わったと考えます。

「気づき」の幸せ 小学館 木村藤子